淀川水系流域委員会　第34回委員会　結果概要

開催日時：2004年10月25日（月）13：30～17：05
場　　所：マイドーム大阪　3階展示場F
参加者数：委員27名、河川管理者（指定席）18名
一般傍聴者（マスコミ含む）200名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

１．決定事項
２．審議の概要
①状況報告
②ダムWGの検討経過報告と意見交換
〇狭窄部上流における目標洪水規模について
〇ダムによる環境への影響について
〇利水について
③地域部会における検討経過報告
④台風23号の被害状況報告
３．一般傍聴者からの意見聴取
４．その他

１．決定事項

特になし

２．審議の概要

①状況報告

庶務より資料 1「前回委員会(2004.9.29)以降の状況報告」を参考に委員会の開催状況について報告がなされた。

②ダムWGの検討経過報告と意見交換

庶務より資料2-1「開催経過」を参考にダムWG開催状況について報告がなされた後、河川管理者より資料2-3「ダムWGの資料抜粋」を参考に報告がなされた。さらに今本ダムWGリーダーより資料2-2「ダムWGについての検討経過メモ(041025)」を用いて説明がなされた後、主な論点について意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

〇狭窄部上流における目標洪水規模について

・狭窄部上流における目標洪水規模を既往最大実績洪水とするか、あるいは既往最大総雨量の降雨パターンによる引き伸ばしとするか。どちらを想定するかによって、ダム

の結論が大きく変わってくる。前者であれば河道整備で対応できるが、後者の場合は河道整備だけでは対応できなくなってしまう（ダムＷＧリーダー）。

・税金を使って事業を行う以上、最大限の安全度を確保することが望ましい。しかし、予算、期限、実現可能性を考えれば、引き伸ばし降雨ではなく既往最大の実績洪水を対象にせざるを得ないと考えている。実現できない理想は掲げるべきではない。また、台風 23 号の被害（円山川、由良川、桂川、猪名川等）も検討した上で決めていきたいと考えている。

・今回の河川整備計画では、従来とは違う治水の考え方や「川が川をつくる」という理念を打ち出している。これまでは、過大な目標を立てダム中心で対応してきたために、堤防強化や代替案の検討が後回しになっているという面もあるように思える。やはり、既往最大の実績洪水で検討すべきだ。

・引き伸ばし降雨を用いて流量を増やせば、ダムの効果も増大する。ダムの効果ばかりを強調させるような計画には反対だ。

・河川管理者が上野地区で想定している目標規模（降雨パターンによる引き伸ばし降雨）は妥当だと考えている。ダムを念頭に考えてしまうと議論が非常に複雑になってしまうが、集中豪雨が頻発している状況を考慮すれば、やはり、妥当な目標規模だと考えている（委員長）。

・既往最大実績洪水も引き伸ばし降雨も目安の１つであり、絶対ではない。実現できる規模でなければ意味がない。地域住民や河川管理者、学識者等の意見を聴いて、地域ごとに決めればよいことだ。委員会や河川管理者が「こうあるべきだ」と決めつける必要はない（委員長）。

・河川管理者は「狭窄部上流は、既往最大総雨量の降雨パターンによる検討」としながら、猪名川の銀橋上流は既往最大実績洪水を用いており、ダブルスタンダードとなっている。実績の最大総雨量の降雨パターンによる検討は、あくまで仮想の降雨を対象にした検討であり、実績ではない（ダムＷＧリーダー）。

・上野地区は引き伸ばし降雨、銀橋上流は既往最大実績洪水を目標としており、場所によって基準が違っている。やはり、実績洪水をベースに検討を進めた方がよい。

・高時川流域の目標規模を決めなければ、丹生ダムの検討ができない（委員長）。

←高時川流域の河川整備計画については、現在、滋賀県が川づくり会議や住民への意見聴取を実施して計画策定を進めている。河川管理者としては、県の治水計画を消化した上で、委員会に説明をしたいと考えている（河川管理者）。

・銀橋上流の目標規模はいまだに示されていない。再検討中とのことだが急いで欲しい。

←速やかに示したい。余野川ダムは銀橋上流だけではなく猪名川下流域への効果もあるが、その効果に緊急性があるかどうかについても、あわせて示したい（河川管理者）。

・目安としてならば、どんな人にもよく分かる「分かりやすさ」が重要だ。引き伸ばし

降雨はもっと後の議論で考えることだろう。目安としては、既往最大の実績洪水を目標とすることが、素直な考え方だ。

・住民の視点から考えると、わかりやすい「目安」は大切だ。床上・床下浸水も目安の１つだろう。また、河川管理者と住民が一緒に責任を持ってやるということが一番大事だ。

←「住民がどう思うか」というのは大変気にしている。既往最大実績流量を対象にする案（上野遊水地＋河道掘削＋新設遊水地）では、従来の計画（川上ダム＋河道掘削＋上野遊水地）よりも効果が小さくなるため、河川管理者としては住民に説明がつかないと考え、既往最大総雨量の降雨パターンによる検討を進めていこうと考えた（河川管理者）。

・流量や雨量を基準にした治水対策だけではなく、「死者を出さない」「床上浸水は回避する」「生活再建可能」といった被害者側からみた基準と、昭和 28 年の洪水で具体的に起きた被害をセットで考えていく必要がある。

・従来の考え方でいけば、河川管理者として治水安全度を下げるのはよくないということだと思う。しかし、今度の河川整備計画では、従来の考え方とは違う考え方・やり方でより安全な河川をつくっていこうとしている。住民には、従来の考え方の場合と新しい考え方の場合についてどうなるか、また従来の考え方とは違う方法で治水安全度を保っていくということを説明する必要がある。

・昭和 28 年洪水で実際に上野地区でどんな被害が起きたのか。広範囲で浸水しているが住民は避難していたので、死者は出なかった。今、同じ洪水が発生すれば、どんな社会的な被害が発生するのかについても考えないといけない。

・天端－余裕高を 1㎝ でも超えれば破堤するという前提条件だが、これまでの考え方であればこの条件は確かに妥当だ。しかし、本当に 1㎝ でも超えれば破堤するのか、現実的な前提条件なのかどうか、検討したい（ダムＷＧリーダー）。

○ダムによる環境への影響について

・ダムによって環境がどの程度悪くなるのか、どの程度の影響でとどまるのか。その影響をどう対応していくのか。ダムＷＧで検討すべき事項だが、そういった資料はまだ出されていない。至急、提出して欲しい。

←環境に与えるダムの影響とその対応策は、まだ説明できていない。これまでのダムＷＧでは、ダム本来の目的・必要性についての議論がなされてきたと思っている。環境については、同時に検討すべきなのか、あるいは次の段階で検討すべきなのか。議論のあるところだと思っている（河川管理者）。

・これまでは、代替案を検討した上でダムによらざるを得ないとなった時にダムの環境への影響を検討し、ダムの是非を決めるという順序だったが、それは違うのではないか。ダムやその代替案を検討する時に、それぞれの環境への影響も比較検討すべきだ。

そして、治水面における効果や環境への影響が分かった時点で比較・考慮し、住民にも意見を聴いて、合理的な方法を選択していけばよいと思っている。

・琵琶湖に関しては、丹生ダムが琵琶湖の水質に対してどの程度の影響をもたらすかという点が重要だが、河川管理者と琵琶湖研究所の見解が一致していない。ダムの影響が科学的に証明されないうちは、予防原則をベースに考えていくべきだ。安全性が証明されないうちに事業を進めて悪影響が発生すれば、行政責任が問われる。

○利水について

・節水キャンペーンは、キャンペーンで終わらせて欲しくない。具体的な数値目標（何年先に何％の節水）を持った取り組みをお願いしたい。また、市町村ではアジェンダとして市民と一緒に節水活動に取り組んでいる例もあるので、こういった活動との連携もお願いしたい。こういった連携も河川レンジャーの活動の１つになればと思っている。

③地域部会における検討経過報告

庶務より資料 3-1「開催経過」を参考に地域部会の開催状況について報告がなされた後、地域部会部会長より各部会の検討状況について報告がなされた。

④台風 23 号の被害状況報告

河川管理者より台風 23 号によって甚大な被害が発生した円山川と由良川の状況についてスライドを用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。

・今回の台風で、亀岡、嵐山、多田等で溢水が発生したにも関わらず、地域住民はダムがあるから安心だと思っている。身近の川の危険性を知ってもらうために、それぞれの河川別に住民向けのシンポジウムと開催する必要がある。

　←前向きに検討したい（河川管理者）。

３．一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者７名より発言があった。主な意見は以下の通り。

・岩倉峡の現在の流下能力を算定せずに、上野地区の氾濫シミュレーションがなされているのは非常に問題だ。独自に調査した結果、現在の岩倉峡は最小でも 4350㎥/s の疎通能力を有していることがわかった。河川管理者も、現在の疎通能力を調査すべきだ。上野遊水地と現在の岩倉峡の疎通能力であれば、昭和 28 年の 2.0 倍の流出量でも氾濫は起きない。内水氾濫対策と堤防補強で対応するのが適切だ。また、工事実施基本計画では、貯水施設等によって島ヶ原流量地点で 4500㎥/s までカットすることになっているが、つまりこれは、下流へ 4500㎥/s 流してもよく、下流もその覚悟をしているということでもある。それならば、岩倉峡を少しだけ開削してもよいのではないか。

・私は上野遊水地の者で、近畿地方整備局と地役権の調印をした。しかし、いまだに本堤の締め切りも行われていないし、越流堤もできていないので、不安な毎日を送っている。また、上野遊水地は岩倉峡よりも落差がほとんどないので、上野遊水地を掘削すると湿原になってしまうだろう。ここに貯まった水をどのように排水すればいいのか。考慮した上で検討して欲しい。
・地元住民の意見の反映について、改善をお願いしたい。ダムＷＧが河川管理者に対して、住民説明会で出された意見を資料として提出するように要請したにも関わらず、いまだに提出されていない。委員は住民説明会で出された意見を知ってもらう必要がある。このままでは地元の意見が反映された審議とならない懸念があるので、改善をお願いしたい。また、塔の島地区のフォトモンタージュを見て、あらためて、塔の島地区の河道掘削は認められないと感じた。再検討をお願いする。
・委員会は平成 13 年の取水実績を河川管理者に提出するよう要求して欲しい。河川管理者は平成 13 年の取水実績をベースに検討しているとのことだが（資料 2-3 P43)、河川管理者と滋賀県で検討結果に違いがある。河川管理者は琵琶湖の水位がより低水位になるよう検討しているように思える。
・委員会は、利水に関して「河川管理者から精査結果が出ないから新規利水はゼロと見なす」ということではなく、すでに中間報告を出している大阪府営水道の資料を要求し、具体的な検討を進めて頂きたい。全ての利水者の水需要精査確認結果が出揃うのを待つのではなく、結果のわかった部分については１つでもより突っ込んだ検討をお願いしたい。
・上野地区の住民としては、既往最大規模の降雨をさまざまな降雨パターンで検討してほしい。かといって、全ての降雨パターンを検討するわけにも行かないだろう。とりあえず代表的な 10 洪水について検討し、計画を進めていくほかないのではないか。また、遊水地の掘削案が出されているが、地権者は絶対に了承しない。今の上野遊水地でさえ 30 年前から交渉しているにもかかわらず､全員の了承を得ているわけではない。
・20～30 年で達成することを考えれば、目標規模は既往最大の実績洪水にすべきだ。河川管理者から、「上野地区では過去の計画より治水安全度が下がるから、引き伸ばし降雨を目標とする」という説明があったが、そういうことを言い始めると「ダムは事業中だから進める」ということにも繋がりかねない。

４．その他

河川管理者より、流域委員会の新規委員募集について報告があった。

以上